

血圧高値及び慢性腎臓病に関する現況と課題

今後、国内循環器疫学研究、慢性腎臓病(CKD)の臨床試験のデータを使わせて頂いて、課題研究を行う予定があるため、本抄読会ではCKDを検討課題に含む循環器疫学研究の総説を紹介する。

紹介する論文は、血圧が様々な疾患の危険因子になっていることを包括的にまとめたHypertension誌2015年8月号に、掲載された総説である¹⁾。国立循環器病研究センター予防健診部の小久保喜弘先生と腎臓内科の岩嶋義雄先生によるもので、国立循環器病研究センターが行っている吹田研究をはじめ、国内外の循環器疫学研究の知見が多く紹介されている。本総説では、血圧とそれに関する疾患の疫学研究を扱っているがその中にはCKDに関しても、取り上げられている。CKDと血圧の関連を検討した疫学研究においては血圧と蛋白尿や末期腎疾患のリスクを検討した研究が多く報告されており、至適血圧に比べ、正常血圧や前高血圧であっても末期腎疾患リスクと関連することが指摘されている。

このように、CKD予防、末期腎疾患対策として血圧が非常に需要であることに加え、CKDの進行により高血圧が進行し、心血管イベントのリスクとなるなど、心血管疾患と腎機能が互いに関連していることが国内外の疫学研究により報告されている。今後行っていく課題研究については、こうした最近の疫学研究の動向をふまえて、CKDに関する研究課題を設定したいと考えている。

文献

1) Kokubo Y and Iwashima Y; Higher blood pressure as a risk factor for diseases other than stroke and ischemic heart disease. *Hypertension*. 2015; 66(2):254-9.